

JEEFの トピック

TOPIC

冬・春

JEEFの活動の最新トピックをご紹介します!今期も「体験と対話を重視した環境教育」をさまざまなかたちで提供しました。環境教育等促進法基本方針も5年に一度の改定を迎え、2024年5月に閣議決定されました。JEEFも改めて環境教育・ESDの方向性を見つめ直す機会となりました。



4年ぶりの 清里ミーティング @清泉寮

2023年12月の清里ミーティング(通算37回)を、4年ぶりとなるキープ協会清泉寮及び山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターで開催しました。コロナ禍でのオンライン開催を経て、清里ミーティングの原点となる場所で再開できたことは大変感慨深いです。会場の関係で総勢120名と過去よりは小規模ですが、そのぶん密な交流ができたように感じています。



テーマは「これからの日本型環境教育の提案〜2030ネイチャーポジティブ〜」。全体会ではネイチャーポジティブの概要と、自然学校や環境教育が担う役割、他業種の連携による広がりや4名のゲストと参加者が一緒に考えました。ポスターセッションやワークショップでは参加者主体となつて意見交換や体験が行われ、皆さん食欲に取り組みれている様子でした。オンラインでいろいろなことができるよう

になつて便利な一方、直接会つて集まることでしか感じられない熱もあると改めて感じました。参加された皆様がそれぞれ得たものを持ち帰り、新しい発展に今後つながっていくことを期待しています。

環境教育等促進法基本 方針の改定に参画

「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」の5年に一度の改定に向けた専門家会議の事務局をJEEFが担当し、2024年5月に閣議決定がされました。1年に渡り、多くの方と意見交換しながら進めてきたものがかたちになり、達成感もひとしおです。基本方針では環境教育においてこれまで重視してきた体験活動に加えて、多様な主体同士の対話と協働を通じた学びやICTを活用した学びの実践を、学校、

地域、企業等の様々な場で推進すること等が明記されるとともに、中間支援組織の強化等が挙げられています。改定の内容は環境省のページで見られるので、ぜひご確認ください。2024年4月から、JEEFはESD活動支援センターの運営も担うことになり、その役割を果たすべく取り組んでいきます。



ジャパンGEMSセンターが「ELMSセンター」へ

ジャパンGEMSセンターは、2024年4月1日付で名称をELMSセンター(Exploratory and Science in Mathematicsの探究的な学び)へと変更し、新たな探究的な学びのセンターとして再スタート。時代に合わせ役割を刷新することとなりました。ジャパンGEMSセンターが大切にしてきた視点の他、持続可能

な社会への視点や多様性の尊重、場づくりとファシリテーションなどの要素を新たに加えて、科学と数学の探究的な学びを追及していきます。

2001年の設立以来、22年間にわたり全国(海外も)で実施してきたGEMSが区切りを迎えた寂しさを感じつつ、GEMSの知見や経験と環境教育の融合がより進めやすくなる期待も膨らんでいます。ぜひ今後のELMSセンターにご期待ください。



バンングラデシュの6次産業化プロジェクトが第1年次を終了

地球のこども夏号でも紹介した、外務省日本NGO連携無償資金協力の支援により進めている「バンングラデシュ・ジョショール県の零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト(第1年次)」が終了し、第2年次が開始となります。第1年次事業では、零細農村生産者135世帯を対象とした6次産業を進めるための基盤整備、組織化や能力開発を図ることを目指し、ヤシ砂糖、花卉、手工芸品、アグロツーリズムのグループで組合をつくり、パンフレット制作や商品開発・サービスを行うための技能向上、学校での環境教育プログラムの実施等を行いました。今後は、協同組合、プロジェクトチームや各専門家等のステークホルダーと協働・連携しながら、研修マニユ



学校菜園で収穫した野菜を使った交流プログラム



アルを活用して受益者135世帯による商品開発や市場販売へ向けた技能向上、マーケティング等に取り組んでいきます。

環境に配慮した取り組みで生計を立てられるようになることで、開発による環境問題や自然破壊を防ぐとともに、モデルケースとして他でも拡大されていくことに期待です。

文：垂水恵美子(JEEF)